

橋梁技術発表会及び講演会

— 100年橋梁を達成する技術 —

参加費無料
定員 **350**名
申込先着順

会場 **ドーンセンター**
(大阪府立男女共同参画・青少年センター7Fホール)
〒540-0008 大阪市中央区大手前1-3-49
Tel.06-6910-8500

平成26年
日時 **10** / **17** (金)
13:00~16:50

13:00~13:10 **開会の辞** 一般社団法人 日本橋梁建設協会
副会長・専務理事 下 保 修

13:10~13:25 **橋建協報告** 広報委員会

申込方法

- ① Fax. **06-6535-5086** (裏面の用紙に記載)
- ② ホームページ(URL) <http://www.jasbc.or.jp/>
の「技術発表会申し込み受け」まで(受付は9月上旬から)

申込期限

平成26年10月3日(金)

連絡先

一般社団法人 日本橋梁建設協会 近畿事務所
〒550-0005 大阪市西区西本町1-8-2 三晃ビル5階
Tel. 06-6533-3238

継続教育

CPDS認定予定

- ※東京地区は 10月10日(金) 銀座ブロッサムホール
 - 東北地区は 11月 7日(金) 仙台国際センター
 - 北海道地区は 11月14日(金) ホテル札幌ガーデンパレス
 - 九州地区は 11月28日(金) レソラNTT夢天神ホール
 - 中部地区は 12月 5日(金) 東建ホール
- 開催です。
申し込み等詳細はホームページでご確認願います。

第1部：技術発表会のPPTはホームページに掲載しますので、ご希望の方はダウンロードお願いします。

第1部:技術発表会

13:25~14:05 **1.製作技術の変遷と今後の展望**
製作小委員会 製作部会 加藤 千明

14:05~14:15 休 憩

14:15~14:55 **2.鋼コンクリート合成床版の凍害に関する実験的研究**
床版小委員会 床版技術部会 久保 圭吾

14:55~15:35 **3.震災時における補修・補強事例**
～応急対応から本復旧まで～
保全委員会 保全第一部会 福島 道人

15:35~15:45 休 憩

第2部:特別講演会

15:45~16:45 **1.橋梁の維持管理**
～ 現状・課題・将来展望 ～

関西大学総合情報学部 教授
古田 均



16:45~16:50 **閉会の辞**
橋梁技術発表会実行委員会 副委員長 竹中 裕文

アクセス



- 京阪「天満橋」駅下車。東口方面の改札から地下通路を通過して1番出口より東へ約350m。
- 地下鉄谷町線「天満橋」駅下車。1番出口より東へ約350m。
- JR東西線「大阪城北詰」駅下車。2番出口より土佐堀通り沿いに西へ約550m。

1 製作技術の変遷と今後の展望

国内の鋼橋製作の歴史は130年余りを数える。近年、原寸のCAD化、NC切断、シミュレーション仮組などIT技術活用に伴い製作精度は格段の進歩をとげ、複雑かつ芸術性を兼ね備えた橋梁も誕生してきた。また、鋼材の進歩に伴う溶接技術の発達、自動溶接機に代表される様々な自動化、非破壊検査の適用拡大等、新たな技術の導入も進んでおり、耐候性鋼橋梁に代表される長寿命化に向けての取り組みも、一層活発になりつつある。橋建協創立50周年にあたる今年、鋼橋製作の歴史について振り返る。

2 鋼コンクリート合成床版の凍害に関する実験的研究

鋼コンクリート合成床版は、下面からの水分の発散がないことからコンクリート中の水分量が多くなると考えられる上、内部に鋼材が多いことで温度変化が大きく、RC床版に比べて凍害の進行が早くなることが懸念される。このため、合成床版の耐凍害性を調査することを目的として、合成床版を模擬した供試体による凍結融解試験を実施し、水分量、内部温度、スケーリング量などを計測した。ここでは、これらの結果について報告する。

3 震災時における補修・補強事例

～応急対応から本復旧まで～

阪神淡路大震災以後、耐震基準の見直しに伴う耐震補強の効果により、先に発生した東日本大震災における鋼橋の被害は、津波によるものを除けば大きな損傷は少なかった。

しかし、我が国は地震国でありその発生頻度は高く、今後もその緊急な対策・対応、恒久的な補修・補強対策は必要不可欠である。また、橋梁の高齢化により保全の時代と言われている現在、震災時以外にも応急対応などが必要となるケースも予想される。

本報告は、過去の震災での経験を次に活かすために、応急対応から本復旧までの補修・補強事例を紹介するものである。

特別講演会 講演者紹介

1 橋梁の維持管理 ～ 現状・課題・将来展望 ～

古田 均

関西大学総合情報学部 教授

一略歴一

1971年 京都大学工学部土木工学科 卒業
1973年 京都大学大学院工学研究科修士課程
土木工学専攻 修了
1976年 京都大学大学院工学研究科博士課程
土木工学専攻 単位取得退学
1976年 京都大学工学部助手
1983年 米国バドュー大学客員助教授
1987年 米国プリンストン大学客員研究員
1989年 京都大学工学部助教授
1994年 関西大学総合情報学部教授
2003年 米国コロラド大学客員教授
現在に至る

一所属学会一

土木学会、日本建築学会、日本材料学会、
日本鋼構造協会、計測自動制御学会、
システム制御情報学会、日本知能情報ファジィ学会、
アメリカ土木学会、IABSE、IABMAS

一学会活動歴一

土木学会理事、関西支部長、
国際委員会委員長、構造工学委員会委員長

一社会活動歴一

NPO法人 関西橋梁維持管理大学
コンソーシアム理事長
関西道路研究会 橋梁委員会委員長
大阪府都市基盤施設維持管理技術審議会会長
大阪府モノレール技術審議会会長
奈良県市町村橋梁長寿命化修繕計画策定委員
会委員長

一最近の研究分野一

- 1) 橋梁の維持管理計画の最適化に関する研究
- 2) 画像処理を用いた橋梁の損傷度評価
- 3) 震災後のネットワークの復旧計画策定に関する研究
- 4) カオス理論を用いた構造ヘルスマニタリング

講演概要

現在、社会資本の維持管理が重要な課題となってきた。特に、社会資本でも橋梁の維持管理が我が国のみではなく世界各国で喫緊の課題となってきた。我が国にはスパン2m以上の橋梁が60万から70万橋あるが、最近国土交通省からその全てを5年に1回近接目視点検をすることが義務付けられた。ここでは、橋梁の維持管理に話を絞り、現状および課題、そして今後発展が期待される技術分野や、効率的な維持管理を行うための運用方法等について述べる。

FAX番号:06-6535-5086

平成26年度

10月17日(金)

橋梁技術発表会

[大阪地区]

参加申込書

所属

団体名

所属

氏名

役職

氏名

住所

〒

電話番号

FAX番号

E-mail

前回参加の有無 有 ・ 無